

して是を見物す此時の賑ひ都に増れり

足立郡大宮駅一宮氷川明神は人皇十一代垂仁
天皇御宇此所に鎮座大門十八町左右の並木松
柏眇々たり本殿は四所所謂男体女体火の王子
宮立は八重立出雲を遷せり

武藏風土記ニ云足立郡氷川神社神田百東十字
田四冊觀松彦香稻天皇御宇三年戊辰所祭素盞
鳴尊大己貴命寄稻田畑三座下畧觀松彦八孝照
天皇御事

秋葉山權現蓮馨寺境内 祭禮三月十八日

熊野權現同祭禮三月十五日 當社別當寶壽院

園智院各當山派

秋葉權現榮林寺境内

辨天社觀音寺妙昌寺

番神宮妙養寺行傳寺本應寺妙昌寺

十五堂猪鼻町 蓮馨寺持

古跡

藥師堂旧地本町 中程今海老屋といへるけん
どん屋の所にあり六七十年以前多賀町へ引た
り今常蓮寺藥師是也。

熊野堂旧地本町 北側榎本彌左衛門屋敷脇當時青物屋の所に熊野堂とてわつか半の古塚有いつの頃より有し事哉今は平陸となれり金山權現旧地鍛冶町 古代平井治兵衛屋敷にあり。西側、今万屋の所今は東側に勸請せしか年曆不知。凡二百年程のよし。靈驗あらたにして、鍛冶、古代より火災を免れ、偏に權現の擁護なりと云傳へたり。毎年二月十五日當所の鍛冶共青銅を甚兵衛方へ持寄り赤飯などして、權現を登る。是古代の遺風也。

庚申塚鳴町 大工町突當り、北側今番屋の所に、小き塚有。其上に古木の榎有。世俗庚申塚と呼來れり。延寶の頃、いつとなく塚も平陸となり、近年は番屋を立る。石像(尊)社等は有しといふ説もあり。又塚斗なりしを庚申塚と呼來れ。榎は享保の頃まで有しが、古木故朽例れたり。蟻塚猪鼻町 中程より少し鳴町の方にあり。往古來歴知れず、年久しきことにて今は知る人もなし。

東明寺大門旧地北町 今東側門谷六郎兵衛屋

敷分也。當時間坂と云種屋の邊但道はなし。公儀水張にも道の分の由。

十念寺旧地代官町今宮下 東明寺大寺の時分は此邊都て境内なり其頃十念寺も此代官町に有侍屋敷地割にて堰所引たり。

真行寺旧地改の内 往古此邊にありしといへとも所不詳。

妙昌寺旧地多賀町 古來當所今湯屋の邊にありしが、一度寺衰微に及び延寶の頃此地を賣拂ひ、境町にて其頃家中浅場孫兵衛と云者下屋敷

を求て引移しと云。

行傳寺旧地久保町の内不詳所は不詳

高松院旧地清水町 所は不詳、中古城中に引けたり。

鍋屋旧地宮の下 今の廣小路の處大昔五持鍋

屋先祖居住の地なる由委しく鍋屋の所にあり。

大河内屋敷裏宿の邊 今永田氏屋敷 今永田氏屋敷 元大河

内金兵衛殿此所に居住の由。

囚獄屋敷鍛冶町 西側今名主四郎治屋敷古よ

りいかなる子細にやかく云傳たり。鴨町鍛冶町

の塚昔也此所に水戸有鴨町よりの入口元は余程の坂也いつとなく今平陸となる

切支丹屋敷中原町の邊今高松氏屋敷の邊寛永の頃伊豆守殿天草より切支丹類葉召連此處に差置たり依てかく云。

三間屋敷中原町今相生氏屋敷の邊古長屋邊迄凡二千坪程三間大隅守と云公儀御預人居住の由わけ有て伊豆守殿より高祿給はると云其跡當御代迄有しか其後小屋敷に地割改

松井屋敷西町の裏今水村下屋敷伊豆守殿家

臣松井五郎左衛門居屋敷也。來歴の事は始に記し爰に畧表通り北向、こけら葺三十間の長屋門、左右裏の三方は不殘圍ひ中にも東の方は外通り、深さ一丈余りのから堀、内方は高土手、其内に居宅縦横に建、東土手際幅四間、堅南北七十二間の馬場を通し、桃柳の並木、依て桃の馬場とも柳の馬場ともいへり。馬場南の末に方五七間高三間斗の山を築き山の白倍に松櫻を植山上に觀音堂安坐せり東向九尺四方千手觀音石佛元祿の頃所替に付不殘破壊し當時水村下屋敷

となれり余不残畠となり只觀音堂馬場築山の
傍のみ残れり觀音堂は古來より此所に有し此
いへり

妖怪屋敷大久保所角 豆州濃州西代は化物屋
敷と云傳て、明屋敷なり。當御代に至り、小屋敷二
に割り、當時笠原氏高橋氏屋敷四拾年以來名住
居あれとも子細なし。むかしは廣原の真中にて
陰気妖怪もありしか。

長松院跡坂下 元此所御鷹匠倉林助左衛門と
云者、住居ありし所也。後廣濟寺末長松院といへる

庵あり是も子細ありて今はなし。余程の屋敷構
にして内は畑也。當時廣濟寺境内に屬す。

御鷹部屋跡中原町 正徳の始、戸田山城守殿鷹
部屋建し跡也。今古長屋入口。

元服跡下松郷 西側久保町突當り、昔大河内金
兵衛殿わけ有て此所にて前髪有しと云。今に方
五六尺斗の地、きよめの場といひ傳へたり。
時の鐘常蓮寺境内

銘曰、武州入間郡河越城下

時鳴鐘損壞於是當

時城主侍從源信綱命

治工新鑄之者也

承應二歲癸巳正月吉辰

治工 推名兵庫鑄之

右は承應年中伊豆守殿鑄させられし鐘也。此所に掛け來りけれとも、形小く、音ひくきか故、當時はづして今會所にあり。

當時の鐘

銘曰元祿七甲戌季七月吉日

鑄物師谷村佳 沼上七郎左衛門正次

河野七郎左衛門良正

甲州谷村の城下、時の鐘なりしを、所替の節、此方持せ來り給へ、音色たくひなく、風氣に依ては六七里か程にても、近所の鐘の如し。誠に黃涉調にて長久の音といふ。谷村所替の節、貫目重き故、其儘差置れへきに極りしを、不思議や龍頭の折鉄延て鐘下へ落たり。鍛て掛けしに、又鐘樓より落たり。再三に及ひしかば、然らば持せ參るへきにして、持來りしに、貫目軽くして、やすく、此當所に來る。凡世俗に申傳へたる鐘の奇成へし諸

人皆知る也。此多賀町は川越の中央、四方への釣
合甲乙なし。殊に鐘撞堂、薬師寺門を兼たり。十二
神のよる所なきにしもあらずとて此所に掛お
く。此地常連寺境内なりしを、南町入口北角にて
代地給はる。代々城主修覆也。近年鐘突の居宅は
自分普請也。享保十八鐘樓の上に標を新規に
建次たり。しか近年は破壊して今は相止たり。田
畑三反鐘突料として古來より附地あり。其外町
中一ヶ月の拂銭、是鐘突二人の給金也。
首塚下町 今東側檢物屋の裏にあり。塚はなし。

天文年の乱北條と西上杉合戦ありし時討死の
首を一つ塚に築きたるといへり。寶永の頃此塚
を崩しけるに、髑髏三四百斗も掘出したり。遠き
事にあらず。東明寺口の戦討死多しと旧記にあ
れは、右戰場に疑なき事也。今も此所の土を穿み
れば白骨出る由尤此所も東明寺境内也。

東明寺橋又田屋橋とも云いにしへより有し
橋也。爰も元東明寺の領なり。此橋は巽乾に簞
へたれば、西大手總門へ正面のよし。東明寺口と
旧記に有ては此處の事也。

東明寺堤東明寺橋より西方所屋の裏通 此所
土地低く度々の洪水に川水あふれければ伊豆
守殿時代土手を築かれ近年もまた修覆あり。
東明寺坂北町より下町への通り 古代余程の
坂有りしが今平陸と成。

枝垂櫻行傳寺境内 本堂の前に有てすくれて
大木也。花盛には枝を交へ、其梢地に付斗花の形
極めて大きく爛熳の時は遊覧の人多し。凡東武
造も名高き名木なりしが享保の頃、風雨のため
に例たり。其跡に若木の櫻を植つき、其名をのこ

す。

妻死田妙昌寺境内 元熟田にて五畝の年貢地
也。此田を作るもの必ず其妻を病死せり。後は田
作するものなく、荒地となりて、俗に妻殺田とい
ふ。伊豆守殿差圖にて、中古芹せりを植られしに依て
芹田ともいふ。寛保の始諸人の他力を以て、彼田
を一ツの嶋に取立て、辨天社を創立す。當地は田面
を見卸し富士秩父の遠山眼前の美景也。

隱居田清水御門外、杉下村の邊 來歴不知。
鳥居田清水御門外、杉下村の邊 さいつ頃洪水

に、仙波辨天の鳥居流來り、此所にと、まりたり。
それよりの名有。

鍋屋五ヶ村 元祖四郎右衛門は足立郡川口村
の者にて、矢澤四郎右衛門と云。代々の者にて、當
四郎右衛門まで四代なり。凡百六七十年以前、
代官町今宮ノ下廣小路の處住居せしを、其頃御
用地に成り、代地野田に於て給はり、今以其所を
鍋新田といふ。又此處も御用にて、今御鷹部屋の
處へ引越、是又間もなく公儀御鳥屋御用に付、今
の地に引移り、凡百十余年に及ひしと云。

迂り淵赤間川向 昔は人里遠くも、強賊此所
に徘徊し狼籍切取して、此淵へ沈しとかや。依而
淵へはまるの心にて誰となく迂り淵と呼なら
はせり。

牛小橋清水町入口構塙の石橋 星野山僧正尊
海牛車に經卷を積み、此牛の止る所、靈境の古跡
なりとありしに、此處に至り牛す、ますして、蹉
しとなり。依ル牛小橋といふ。委ク星野山錄記有
御茶水清水町今長山氏屋敷内 或儒者此水を
稱美して云、正しく京都柳の水と同じと也。伊豆

守殿則柳水を取寄、面笏を掛けて見玉ふに、分厘
軽重たかふ事なし。依て類なき名水なりとて、新
に清潔の志水の側に井を堀、井桁となして城主
代々御茶水に奔走す。

浮島仙波下　こゝ一もりの森にして三方は田
面前に細き道あり。此地浮しま也。五月雨の降つ
つきにも此森の芝草隠れて常にひたく水也。
其内に稻荷社有。

都嶋　浮島の邊、これも浮島のことき漂泊する
島なるへし。いつれの所か不詳。

尾崎台仙波下　余名川の方より見れば南は仙
波續き、遥の臺カ往古神龍住て其頭は仙波星野
山に至り、尾は此處にありしといふ。俗言の説あ
り。

樹木屋敷宮ノ下藏町突當四千四百八拜東西七
十六間南北五十八間　酒井河内守殿當城領地
の時、三州雲峯山龍海院曹洞宗二百石を移され、
菩提所とす。慶長六年所替に付、今廐橋にあり。同
備後守殿居城の節、又菩提所建立有。南陽山源昌
寺曹洞宗料二百石有之今樹木屋敷役人の家居の邊、